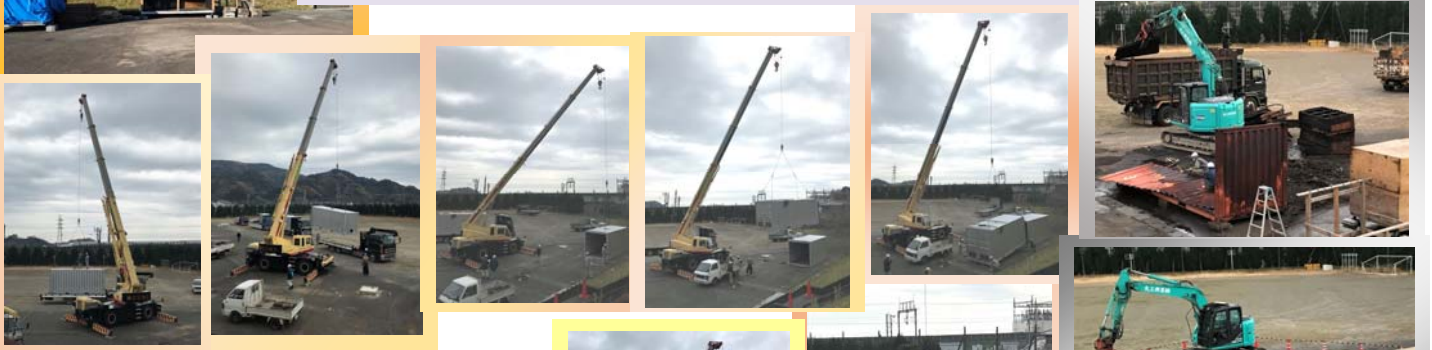


第98号の2 (臨時創刊号) / 昨年度の忘れ物

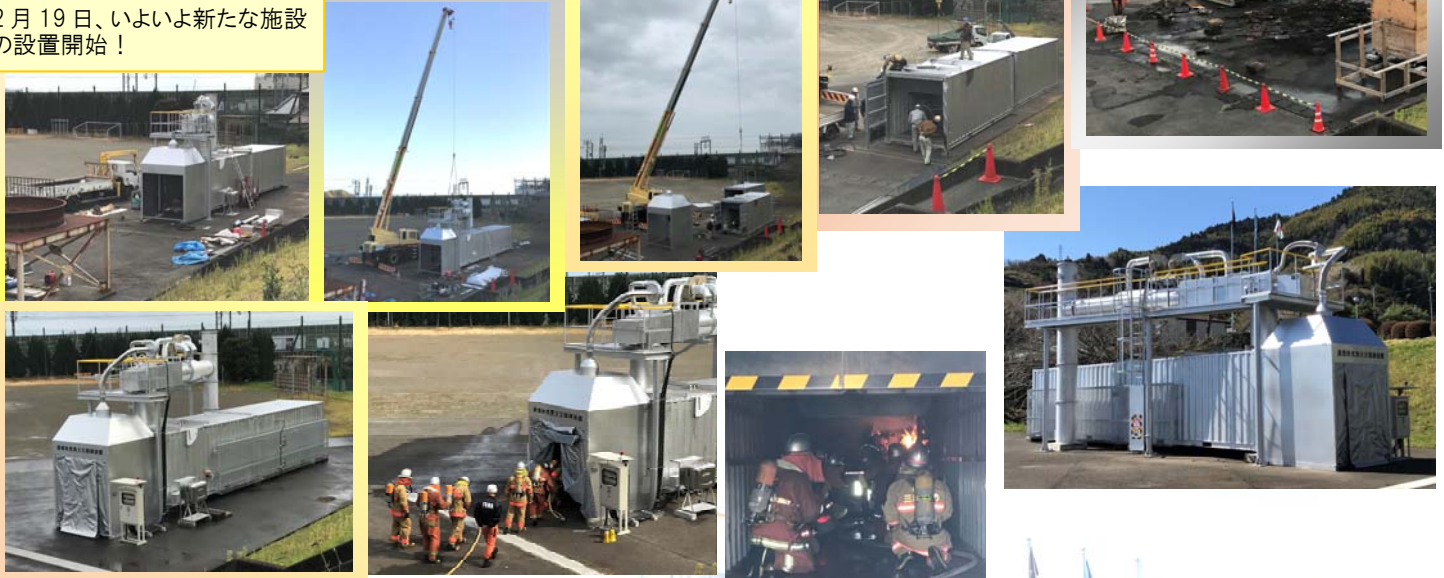
平成31年1月10日、新たなホットトレーニング施設設置のため、旧コンテナ利用型施設を解体・撤去...

消防学校 ニュース

年の暮れからアツという間に年度末(平成30年度の忘れ物)の巻



2月19日、いよいよ新たな施設の設置開始!



教官たちの
教官たちによる
教官訓練3.28!

濃煙熱気実火災訓練装置

新年度に向けて

Are you lady ready?



消防職員専科教育

予防査察・危険物科



関講師の講義



繁華街査察実習

予防査察・危険物科第3期では、12月3日の入校から3週間にわたり、実質13日間に及ぶ専科教育が実施され、19日、第3期生45名全員が無事に課程を修了しました

特に、修了式前日、12月18日は、寒い中、静岡市消防局の格別の協力の下、静岡市の繁華街において立入検査実習を行いました。

静岡市消防局の査察課の方からは、入校生の皆さんがしっかり準備をされていたということで、午前中の研修から実習まで円滑に実施できたとお話がありました。

検査においては特段問題のある事案はなかったとのこと。静岡市消防局が長年、定期的な検査を実施してきた、その成果と言えるのではないかと思います。地道な活動の大切さ、そして、それを効果的に広く知らしめることの必要性が強く感じられました。

今回の教育訓練では、非常に多くの科目、課題について、講義形式で受講することがほぼ毎日続きました。

県内の消防本部から講師としてお出いただいた方々、消防庁などからの外部講師の方々、全般にわたって、いろいろな講師の皆さんにいろいろな講義をしていただき、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



理化学実験



研究発表

消防職員幹部教育

上級幹部科



上級幹部科第17期には12名が入校しました。12月4日から6日まで3日間という非常に短い期間ではありましたが、修了生の皆さん、大変お疲れ様でした。各所属の管理監督者として活躍され、また苦勞をされている方々が一同に会して合宿による教育訓練を行ったことは、大変意義のあることと思っています。

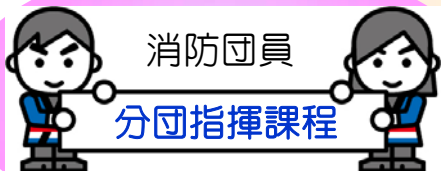
今回の上級幹部科では、業務管理、人事管理、危機管理に必要な知見と、職責の遂行に必要な判断力等を備えることにより、組織全体を円滑に管理運営できることを目標に、カリキュラムを編成しました。

管理職として担うべき役割、責務、なすべき人事管理、業務管理、そして危機管理と、受けられた講義はそれぞれ良い刺激となり、気づきを与えてくれたのではないのでしょうか。

ここ消防学校における3日間は、日常業務、現場から離れて、消防全般、そしてそれぞれの所属の業務、組織の現状や課題を客観的に見る機会になったのであれば幸いに思います。

消防力の向上、或いは健全な組織の維持、体制の強化を図っていくには多くの課題があります。修了生の皆さんが所属において、消防の現状や社会的責任を常に念頭に置き、高い倫理観と強い責任感を基本として、ここ消防学校で学んだことをぜひ生かしながら、指導力を大いに発揮し、自身の職責を果たしてもらうことを期待します。





12月8日(土)、9日(日)には、消防団員幹部教育 指揮幹部科 分団指揮課程 第4期が実施され、県内多くの市町の消防団から、50名近い団員が入校しました。

消防団を中核とした地域防災力の充実強化を図るため、実践的な教育訓練により、分団指揮者となる者に部隊を取りまとめる知識・技術の修得を図り、消防団全体の災害対応能力を強化することが求められていることから、この分団指揮課程は、分団指揮者としての職責をしっかりと自覚してもらうこと、そして、消防団の管理運営と活性化、更には各種災害発生時における分団の管理運営と効果的な現場活動の在り方についての知識、技術を修得してもらうこと、それらをねらいとして2日間の教育訓練を実施しました。

課程を修了した皆さんには、火災や大規模災害に対応すべく、消防団員の訓練指導を含めた日頃の団、部隊の管理運営を適切に担うとともに、災害の現場において指揮を執り、団員の安全を確保しながら、的確な現場活動を行うことを期待します。

消防職員特別教育

実践的大規模災害講習

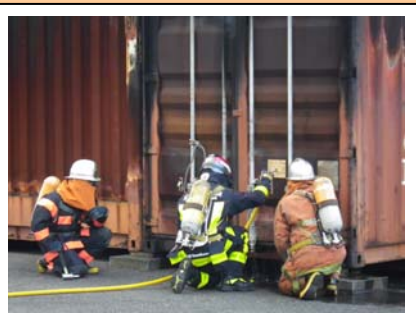


大規模化、複雑多様化の傾向にある自然災害や火災・事故に的確に対応するため、消防・救急の広域化、連携・協力の推進や、緊急消防援助隊の充実と機動力の整備、更には消防体制全体の強化として消防団の充実、救急業務の高度化、予防査察の徹底などに積極的に取り組むことが求められています。

一方で、団塊の世代の退職等、職員の大量退職の時期が続く昨今、50歳以上の職員が年々減少し、平成20年度以降の採用職員が大幅に増加しています。

火災件数そのものやベテラン層の職員の減少により、火災現場の経験に基づく消火、検索、救助等の専門的知識と技術を伝承することが難しくなっており、現場経験の少ない職員の増加による災害対応能力の低下が懸念されています。

このような情勢を踏まえ、消防学校では、消防職員の災害対応能力等の向上を図ることが急務であると考え、実践的訓練の充実強化、それに大規模災害時に必要不可欠な緊急消防援助隊に関する教育、更には最新の資機材である小型無人機・ドローンに関する操作研修を織り込んで、本年度から新たにこの講習を実施することといたしました。



今回の講習は3日間(12月11日～12月13日)という短い期間でありましたが、入校生には「テロ災害」「緊急消防援助隊」「小型無人機」に関わるもの、また「大規模災害図上訓練」や「実火災体験型訓練」など、密度の濃い講義や訓練を受けていただき、最先端の知識や技術を修得してもらいました。





新年

新年を迎えました。
 昨年は消防殉職者、更には本校に設置される「静岡県消防殉職者顕彰碑」について改めて認識する年でありました。
 仕事始めの1月4日、顕彰碑への献花を行い、新たな1年が良き年でありますよう祈りました。
 顕彰碑への祈りが今後も続けられますように…。

消防職員専科教育

初任科に次ぐ規模

救急科



消防職員専科教育 救急科第28期 119名は、新しい年が明けてまもなくの1月8日に入校し、2月28日まで、病院実習等を含めて実36日間、県内外の医師、助産師、救急救命士といった医療に従事する方々のほか、法律、社会福祉などの様々な分野の専門家の方々から、救急隊員として必要となる、高度で専門的な知識と技術の教示、指導を受けました。

1月

2月

救急業務における心構えや基礎的な知識・技術はもとより、応急処置等に必要となる専門的な知識・技術まで修得して、救急科の課程を修了することにより、救急隊員としての要件を満たすこととなりますが、社会情勢の変化等により多様となる救急の現場においては、状況に応じた、様々な判断が求められ、かつ、適切かつ迅速な対応や処置が必要となってきます。今回の救急科を通じて培った知識・技術を生かす判断力と更なるスキルアップが求められるということです。

「高い志」を失うことなく更なるレベルアップを図り、今後積み重ねていく「経験」を通じて、県民の生命・身体・財産を守ることにぜひつなげていただきたい。そして、多くの救急救命士が輩出されることも大いに期待しています。



早朝体育



分娩介助



修了式

火災調査科 (第43期)

火災調査科第43期は、3月4日から2週にわたって教育訓練が行われ、入校した44名は課程を終始熱心に受講し、3月15日全員無事に修了式を迎えました。実質10日間という短い期間ではありましたが、本年度の本校における消防職員の教育訓練を見事に締め括ってくれました。



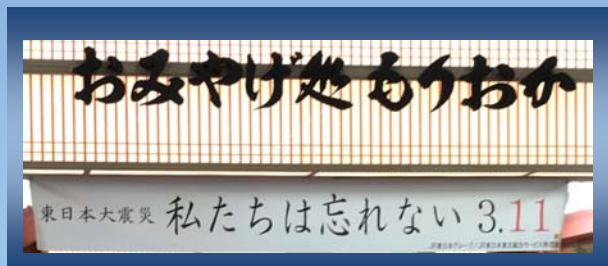
火災調査科は、平成25年度から昨年度までに75名の警察職員を受け入れて「合同研修」という形で実施してきましたが、今年度は、警察本部の諸事情により警察職員の入校がなく、消防職員のみでの実施となりました。



夏の台風で被害があった宿泊棟の壁掛け大時計が3月7日によりやく復活！再び本校の屋外訓練の様子を静かに見守ってくれます。



時(とき)が戻った!



3月11日、澤野学校長は特命により岩手県山田町に赴き、「東日本大震災大津波 山田町犠牲者8周年追悼式」に出席。

被災地では、新たな防潮堤や住宅の新築、鉄道・道路などのインフラ整備が急ピッチに進み、新たな景色が次々と姿を見せており、三陸鉄道リアス線の3月23日開通、ラグビーの街「釜石」を後押しするラグビーワールドカップ開催など明るいニュースはありますが…。

式典当日、傘もさせないほどの暴風雨の中、お集まりになった被災者の皆さんは、8年経った今、どのようなお気持ちでいらっしゃったのでしょうか。



台湾消防との交流が本格化!!

その1

台湾内政部消防署訓練センターがやってきた!!

2月下旬、来校した台湾消防の皆さんを学校周辺の早咲きの桜も迎えてくれました。



台湾全土を所管する台湾内政部消防署訓練センターと静岡県消防学校の教官同士の交流を促進し、双方の消防力向上を図るため、下記のとおり訓練センターから李センター長、教官等9名が消防学校を訪問しました。教官同士の初の交流です。

また、逆に3月中旬に本県から消防学校教官3人と県内女性消防吏員2人を講師として台湾内政部消防署訓練センターへ派遣しました（詳しくは次ページその2を参照）。御協力いただきました県内消防本部の皆様、ありがとうございました。お互いの技術等を学び、相互に発展するため今後も交流を続けていきたいと思います。

※ 台湾内政部消防署訓練センターとは台湾全土を所管する消防士等の訓練機関（日本の消防大学校に相当）

来静日：平成31年2月26日（火）～3月2日（土）

来静者：李 明憲（り めいけん）センター長、教官等9名



主な視察スケジュール

2月26日（火）

消防学校視察 消防学校泊

2月27日（水）

消防学校での研修 消防学校泊

（静岡県の初任科研修内容等を紹介、意見交換会等）

2月28日（木）

県内視察（富士山世界遺産センター等）

静岡市消防局駿河消防署視察

3月1日（金）

静岡県中部地区消防会 大規模災害対応訓練視察（藤枝市内）

県庁訪問（危機管理部幹部との意見交換ほか）





その2

消防学校教官、県内女性消防士 いざ！台湾へ！！

平成 31 年 3 月 10 日（日）から 16 日（土）に、台湾交流事業の一環として、消防学校教官 3 人と県内女性消防吏員 2 人が、台湾内政部消防署訓練センターに講師として行ってきました。

消防学校教官 宮田 真人
消防学校教官 諸星 大輔
消防学校教官 松尾 晋明
静岡市消防局 齋藤 弘美
浜松市消防局 中島 文子

1 日目【移動】

いよいよ、出発の日。成田空港→桃園空港を経由し、台北市内に夜到着。



2 日目【台北市政府消防局視察】

台北市政府消防局長を表敬訪問し、台北市の指令センターや新人隊員の訓練を視察。



3 日目【内政部消防署訓練センター】

いざ訓練センターへ！厳かな開講式で緊張が解けないまま、日本の消防の現状について説明。台湾消防の現場活動を把握するため、研修生には火災想定訓練を実施してもらいました。



4 日目【内政部消防署訓練センター】

研修 2 日目。日本の安全管理、現場指揮について講義をした後、グループごとに K Y T（危険予知トレーニング）を実施。積極的で熱心に取り組む姿勢に感心しました。



5 日目【内政部消防署訓練センター】

研修 3 日目。日本の消防の特徴である三連はしご、三つ打ちロープについて講義をした後、実際に三連はしごを使用して、日本人が考える安全管理の理解を深めてもらいました。



6 日目【内政部消防署訓練センター】

研修最終日。車両・資器材に係る点検要領の講義と、全体を通しての質疑応答を行いました。なお、初任科生（台湾は 1 月から 1 年間入校）が「トンネル火災」訓練を見せてくれました。私達のために課外時間に練習していたそうで、学生と教官に感謝!!



所感

台湾は、日本の消防組織が少しずつ改善や検討を行っている内容について、既に教育を行い、現場に導入し、先進的な取り組みを行っていると感じました。特に、人命救助の技術面、及び IT を活用した活動の効率化に関しては、日本よりも優れている部分が多く見られました。

一方、日本は、職員の事故事例、大規模災害等を教訓として安全管理や職員の育成に力を入れていることに加え、日本人としての真面目さ、勤勉性が規律正しい行動や資器材の愛護精神に繋がっており、危険要因しかない災害現場においても、積極的な安全管理及び強い指揮系統により、複雑な有機的組織活動を行う中でも職員の受傷事故件数を減少させています。

また、規程やマニュアル等を作成し、消防職員が共通認識の下で活動できるよう整備されており、これは、日本の消防組織が他国に誇る「独自の伝統」でもあったと感じました。

研修生を囲んで



1 週間の滞在中、内政部消防署訓練センターの職員を始め、出会った全ての人々が、私達に親愛と敬意を払って接していただいたことに心から感謝しています。

今後も交流を継続することで、両国の技術向上に繋がるとともに、信頼関係の構築に大いに資することを強く感じました。



消防団員

指導員研修会



消防団の消火技術を高め、また、規律の維持、士気の高揚、団結力の強化などにおいて大きく寄与しているのが消防操法、あるいは消防訓練礼式。

3月16日(土)、17日(日)には、その操法等に関わる教育訓練指導員の研修の場である、公益財団法人 静岡県消防協会 主催の本年度第2回「教育訓練指導員研修会」が消防学校を会場に開催されました。



天候にも恵まれ、
年度最後の教育訓練が
屋外訓練場で
繰り広げられました。



年度最後の校長挨拶を終えて

校訓
規律の厳守
技術の錬磨
士気の高揚

One Chot

澤野学校長 最終の制服姿

入校生がいなくても訓練！3.18



本年度をもって所属へ帰任する教官も参加

Two Chot



佐野教官(富士宮:左)と酒井教官(静岡:右)



最初も最後まで教官が締める！！



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1

☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

